

令和5年度「麦類」病害虫雑草等防除暦

JAながの【ちくまブロック】

使用時期 重点防除期間	FRAC コード	薬剤名	薬剤量	倍率	散布量	対象病害虫 *太字は重点 病害虫	収穫前 使用 規制	年間 使用 回数	主な作業と注意事項及びドリフト対策	
種子 消毒	は種前	3+1	ベンレートT水和剤20	100 g	200 倍	-	は種前	1 回	<ul style="list-style-type: none"> •200倍液に6～24時間浸漬する。 	
				-	-	乾燥種子の0.5%種子粉衣				
除草剤	は種後～ 出芽前 又は生育期	-	別紙登録農薬 除草剤より選択	-	-	10a施用量を 確認する	一年生雑草	-	-	
病害 防除	発病直後 及び 出穂期	UN+M 2	石灰硫黄合剤	4 l	50 倍	200 l	さび病 うどんこ病	-	-	<ul style="list-style-type: none"> •予防的に散布する。病徴進展前が望ましい。 •1週間おき2回以上散布する。
	開花期	3	シルバキュア フロアブル	75 ml	2,000 倍	150 l	赤さび病 赤かび病 赤かび病	7 日前まで 14 日前まで	2 回以内 2 回以内	<ul style="list-style-type: none"> •小麦は収穫7日前までに使用すること。 •大麦は収穫14日前までに使用すること。

令和5年度「大豆」病害虫雑草等防除暦

JAながの【ちくまブロック】

使用時期 重点防除期間	IRAC FRAC コード	薬剤名	薬剤量	倍率	散布量	対象病害虫 *太字は重点 病害虫	収穫前 使用 規制	年間 使用 回数	主な作業と注意事項及びドリフト対策	
鳥害等 対策	は種前	M3	キヒゲンR-2 フロアブル	-	-	乾燥種子 1kg当り 20 ml	紫斑病	は種前	1 回	<ul style="list-style-type: none"> •乾燥種子1kg当り塗沫し、処理後は風乾をし、は種する。
	紫斑病 苗立枯れ病 キジ・ハト	I:4A F:12+4	クルーザーMAXX	-	-	乾燥種子 1kg当り 8 ml	紫斑病、 苗立枯れ病(ピ シウム菌)、 キジ・ハト	は種前	1 回	<ul style="list-style-type: none"> •乾燥種子1kg当り20ml塗沫し、処理後は風乾をし、は種する。
除草剤	は種後～ 出芽前 又は生育期	-	別紙登録農薬 除草剤より選択	-	-	10a施用量を 確認する	一年生雑草	-	-	
病害虫 防除	生育初期～ 子実肥大初 期	I:1B	スミチオン乳剤	200 ml	1,000 倍	60～ 150 l	アブラムシ類	生育初期 ～ 子実肥大 初期	4 回以内	<ul style="list-style-type: none"> •収穫21日前までに使用すること。
	8月中下旬	F:1	トップジンM水和剤 トレボンEW	200 g	1,000 倍	200 l	紫斑病 マメシクイガ カメムシ類	14 日前まで	4 回以内	<ul style="list-style-type: none"> •薬剤が莢や莖に付着するように丁寧に散布する。 •開花終期と子実肥大期の防除は大変重要なので、必ず散布する。
	8月下旬 ～9月上旬 (子実肥大初期)	I:3A		200 ml				14 日前まで	2 回以内	

令和5年度 麦類・大豆農薬使用基準一覧

【農薬散布時期】麦類殺菌剤

●農薬安全使用基準

(農薬登録 2022.10.12現在)

散布時期	FRAC コード	薬剤名	薬剤量 (水100ℓ当り)	倍率	散布量 (10a当り)	対象病害虫	農薬安全使用基準		注意事項
							使用時期	使用回数	
種子消毒	M3+1	ベンレート水和剤20	500 ml	200 倍	6～24時間 種子浸漬	斑葉病、なまぐさ黒 穂病、裸黒穂病、 条斑病	は種前	1 回	
			-	-	乾燥種子の 0.5%種子粉衣				
本圃	UN+ M2	石灰硫黄合剤	1.6～2 ℓ	50～ 60 倍	200 ℓ	赤かび病	-	-	・予防的に散布する。
			0.72～2.5 ℓ	40～ 140 倍	200 ℓ	さび病、うどんこ病			
本圃	3	シルバキュア フロアブル	50 ml	2,000 倍	60～150 ℓ	(小麦) 赤かび病、 赤さび病	小麦は 収穫 7日前まで	2 回以内	・散布 ・散布【ブームスプレーヤー】 ・無人航空機による散布 ・散布 ・無人航空機による散布
			200 ml	500 倍	25 ℓ				
			6.25 ℓ	16 倍	0.8 ℓ	(大麦) 赤かび病			
			50 ml	2,000 倍	60～150 ℓ				
6.25 ℓ	16 倍	0.8 ℓ	大麦は 収穫14日前まで						

【農薬散布時期】大豆殺虫・殺菌剤

●農薬安全使用基準

(農薬登録 2022.10.12現在)

散布時期	IRAC FRAC コード	薬剤名	薬剤量 (水100ℓ当り)	倍率	散布量 (10a当り)	対象病害虫	農薬安全使用基準		注意事項
							使用時期	使用回数	
種子消毒	F:M3	キヒゲンR-2フロアブル	-	-	乾燥種子Kg に原液20ml	苗立枯病、紫斑 病、タネハエ	は種前	1 回	・塗沫処理
	I:4+ F:12+4	クルーザーMAXX	-	-	乾燥種子1Kg 当りに8ml	アブラムシ類、タネハ エ、ネキリムシ類、フタス ジヒメハムシ、茎疫病、 リゾクトニア根腐病、 苗立枯病(ピシウム 菌)、紫斑病、黒根 腐病、白絹病、ハト、 キジによる種子食 害回避	は種前	1 回	・塗沫処理
殺虫剤	I:1	スミチオン乳剤	100 ml	1,000 倍	100～300 ℓ	アブラムシ類、マメシク イガ、シロイモジマダラ メイガ、ダイスサヤタマ ハエ、カメムシ類、マヒ メサヤムシガ、ウコンメイ ガ	収穫 21 日前まで	4 回以内	
	I:3	トレボンEW	100 ml	1,000 倍	100～300 ℓ	マメシクイガ、ハスモンヨ トウ、カメムシ類	収穫 14 日前まで	2 回以内	
殺菌剤	F:1	トップジンM水和剤	67～142 ml	700～ 1,500 倍	100～300 ℓ	紫斑病	収穫 14 日前まで	4 回以内	

令和5年度 麦類・大豆農薬使用基準一覧

【農薬散布時期】麦類(小麦、大麦)除草剤

●農薬安全使用基準

(農薬登録 2022.10.12現在)

散布時期	HRAC コード	薬剤名	薬剤量	散布量 (10a当り)	対象雑草	農薬安全使用基準			注意事項
						使用時期	使用方法	使用回数	
は種後～ 出芽前	12+15	リベレーター フロアブル	60～80 ml	100 l	一年生雑草	は種後～麦3葉期(雑 草発生前～イネ科雑草 1葉期まで)	雑草茎葉散布又 は全面土壌散布	1回	砂土を除く
	12+15	リベレーターG	4～5 kg	4～5 kg	一年生雑草	は種後～麦2葉期(雑 草発生前～イネ科雑草 1葉期まで)	全面土壌散布	1回	砂土を除く
生育期	2	ハーモニー75DF 水和剤	5～10 g	100 l	一年生広葉雑草	は種後～節間伸長前	雑草茎葉散布又 は全面土壌散布	1回	但しスズメノトホウ5葉期まで
	6	バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	100～200 ml	70～100 l	一年生雑草(イネ科を 除く)	生育期(但し、収穫90 日前まで) 生育期(但し、収穫45 日前まで)	雑草茎葉散布又 は全面散布	1回	麦類(小麦を除く) 小麦

【農薬散布時期】大豆除草剤

●農薬安全使用基準

(農薬登録 2022.10.12現在)

散布時期	HRAC コード	薬剤名	薬剤量	散布量 (10a当り)	対象雑草	農薬安全使用基準			注意事項
						使用時期	使用方法	使用回数	
は種後～ 出芽前	3	トレファノサイド 粒剤2.5	4～6 Kg	4～6 Kg	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリガサ 科、キク科、アブラナ科を除く)	は種後発芽前	全面土壌散布	1回	
	15+3+ 5	プロールプラス乳剤	400～600 ml	70～150 l	一年生雑草	は種後出芽前(雑草発 生前)	全面土壌散布	1回	全土壌但し、砂土を除く。
生育期	1	ポルトフロアブル	200～300 ml	50～100 l	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラ を除く)	雑草生育期イネ科雑 草3～10葉期、ただし 収穫30日前まで	雑草茎葉散布又 は全面散布	1回	
	6	大豆バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	100～150 ml	100 l	一年生雑草(イネ科を除く)	大豆の2葉期～開花前 (雑草生育初期～6葉 期)、ただし収穫45日 前まで	雑草茎葉散布又 は全面散布	1回	